

醜さ認めろよ

作詞作曲 清水信吉
編 曲 maru

「7章 テーマ曲」

君のその認めない態度が
腹の虫の好物になって

今にも大暴れしそうなのに
気づかぬふりすんなよ

バシてないつもりだろう
キョトンとした顔で
誰が悪いんですかと
言わんばかり

その笑顔がムカつくんだよ
なんでも許されると思うなよ
その鈍感な刃で
どれだけ苦しめられてきたのか

怒る私が悪いみたいじゃない
感情がダメみたいに
すまし顔で見てるなよ
醜さを認めろよ
お前も理不尽だろう

言葉の揚げ足をとっては
立派な理論でねじ伏せる

まるで全て分かり尽くし顔で (神様のような)
アドバイスしてくんなよ

求めてないのに
答えを出すのは
本音出されてしまうのが
怖いからでしょう

答えは求めてないんだよ
心の奥に触れたいのに
鈍感なフリをして
いつまでもかわされてきたのか

泣いてる私が哀れみたいじゃん
感情がダメみたいに
冷静なふりすんなよ

醜さを認めろよ

バカみたいに
昨日はごめんね
ほざいてんじゃねー

許されること許せないこと
私の心のプライドがある

その理論がムカつくんだよ
なんでも従うと思うなよ
その立派な答弁で
どれだけ縛られ続けてきたか

怒る私が悪いわけじゃない
感情守りたいだけ
許してとも言わないから
醜さを認めろよ
お前も理不尽だろう

本当は愛したいのに

はあ、さよなら

5. 醜さ認めろ

—自己受容と許し—

何か理不尽だと感じた時、言葉ではうまく言い表せず感情的になってしまい、「感情的になったのが悪い」と理論や常識で言いくるめられる。納得したつもりでも、後からモヤモヤが残るそんな経験はありませんか？

僕自身、実はその“逆の立場”をとっていたことに気づきました。感情的な相手に対して、理論的に話をして黙らせようとしていたのです。間違いに気づいても素直に謝れず、ただ相手の怒りやネガティブな感情が苦手で、それをなだめるために思考で押し切っていた…そんな自分の“醜さ”に直面した時、心が楽になりました。

この曲のラストに出てくる「本当は愛したいのにはあ、さよなら」という言葉は、決してネガティブな別れではなく、前向きな自己解放のメッセージです。

「あなたのことが嫌いなわけじゃない。でも、醜さを認めようとしないうあなたとは、もうさよなら。」そんな潔くも愛のある“別れ”を通して、自分を許し、次のステージへ進むための歌です。

